

## 地域づくりの 課題と目標

的形地区は、約2,300世帯(6,400名)のうち、2/3が高齢化率の高い旧地区、1/3が40~50歳代の壮年層が多い新興住宅地区で、両者の価値観や意識の違いは町内コミュニティ活動の障害となっていました。それらを克服する目標は、世代間の一層の交流であると考え、その手段として、子どもたちの安全・安心の町づくり、高齢者の生きがいづくり、海・山的美観を後世に伝える美しい街づくりに取り組んでいます。具体的には、コミュニティの中心基地である公民館事業の充実強化として「子育て支援と子どもの居場所作り」「定期的な町民文化発表会等の開催」「里山づくり」などを進めています。

### 公民館事業の改革

これまでの公民館事業の参加者は、旧地区の比較的高年齢の方々が多かったため、子どもを対象とした事業を増やし、若手層及び新興住宅地区の人々の活動への引き込み作戦を展開しました。

具体的には、「子育て支援教室」「こども教室(工作、書道、茶道、絵画、料理、陶芸、版画)」「パソコン教室」「手作りパン教室」等を新設。また、従来の学習発表会を『町民文化発表会』に改め、町民の文化発表の場として、年1回、的形小学校体育館で開催しています。



【町民文化発表会】

### 里山づくり

「元気な的形」を目指して挑戦している事業です。地域コミュニティ活性化のもう一つの柱として、多くの地域住民に里山に親しんでもらい、健康づくり・体力づくり・多世代間のコミュニティづくりの一環として広く利用してもらえるよう「的形ふるさと里山会」を結成し、登山道の開拓・整備、眺望所の開拓、休憩ベンチとあずまやの新設、登山マップの作成等に取り組みました。その結果、里山での「元旦初日の出拝観登山」「毎月一日の日の出登山」「学校の校外授業」が地域で定着しました。

また、地域外からの登山者も多くなっています。



【元旦初日の出拝観登山】

## これまでの 成果や 今後の予定

交流広場事業の取り組み以降、公民館事業だけでも平成18年度の1万人/年から、平成22年度は2万人/年と、参加者が倍増。事業内容の改革、特に「こども教室」の充実によって、若い保護者層や新興住宅地区の方々の参加が増え、次世代への継承が期待できます。

里山づくり活動についても、的形の集落を取り囲む里山登山道を完成させ、「的形ふるさと里山回廊マップ」を広く配布し、他地区へのPRに努めています。平成23年度で広場事業の助成は終了しますが、活動に後退がないよう「的形地域推進委員会」がリーダーシップを執り、活動財源の確保及びリーダー育成を推進します。

### 拠点施設



市立的形公民館別棟

### 《主な整備内容：新築》

- 公民館敷地内に多目的室を新築(プレハブ平屋建て、48㎡)
- 地域の安全・安心を目的とした放送設備の設置
- 備品の整備(机、椅子、展示用パネル、プロジェクター、パソコン等)

### 連絡先

的形地域推進委員会

TEL / FAX 079-254-3293 (的形公民館内)

## 地域づくりの 課題と目標

林田町(林田・伊勢地区)は姫路市の北西部に位置し、古い歴史をもつ町です。町内には旧因幡街道が南北に通じ、江戸時代には林田藩主建部家1万石の城下町として繁栄し、県指定文化財の三木家住宅や市指定文化財の敬業館など歴史的資源が豊かな地域です。現在林田町は、世帯数2,000戸、人口約5,400人、高齢化率は27%で毎年約1ポイントずつ上昇し、また人口減にも歯止めが出来ていません。

このような中で、歴史遺産や地域資源、自然環境に恵まれた環境資源を大事にした、地域間交流や世代間交流のコミュニティ活動を展開し、活力あるまちづくりを進めていくこととしました。

### 林田ふれあい祭り

自治会、婦人会、老人会、林田交流センターゆたりん、NPO法人新風林田など多くの団体の協力を得て、ふれあい祭り(春祭り・夏祭り・冬祭り)を開催し、誰もが楽しめる催しとして地域に定着しています。

平成23年度の冬祭りは、12月18日(日)に開催し、約800名の参加者が、グラウンドゴルフ、輪投げ、綱引き大会等のスポーツ大会、餅つき大会、地域芸能グループの演芸大会など多彩なイベントを楽しみました。年々参加者が増えています。



【ふれあい冬祭り綱引き】



### ふれあい喫茶と子育て広場

面積が広く人口密度が低いという地域の特性と地域間交流を図る観点から、交流センターでのふれあい喫茶と、地域巡回型ふれあい喫茶をそれぞれ年6回実施しています。スタッフは全員ボランティアです。センターでのふれあい喫茶は、毎回150~180人の参加者があり、地域巡回型は、“コスモス祭り”など季節のイベントとの同時開催もしています。

また、子育て広場“えがお”を運営し、ボランティアスタッフによる子育て支援も行っています。未就園児とその親が楽しく遊び、多くの人とふれあい、友達の輪を広げることを目的に、親子のわくわくタイム、みんなでおしゃべりタイム、なかよしタイム(自由に集まって遊ぶ日)を実施しています。



【ふれあい喫茶ボランティアの皆さん】

## これまでの 成果や 今後の予定

多くの方にボランティアとして協力を得て、新しいイベントを実施し、年々行事への参加者も増えてきました。さらには、里山会・林田町観光ボランティアガイド・NPO法人新風林田・林田中学校ジュニアボランティアガイドなど新たな活動組織も立ち上がりました。交流広場がめざした地域活性化のひとつの成果と考えています。

今後は、交流広場事業の助成が終了する平成25年度以降の活動と資金対策が大きなテーマとなります。自治会等の既存組織と新しい活動組織を有機的に結びつけ、多世代交流を図りながら、一步一步前進していきたいと考えています。

### 拠点施設



林田・伊勢ふれあいセンター

### 《主な整備内容：改修》

- 交流スペースやキッチンコーナー、郷土資料室を整備
- ソーラー発電等のエコ装置設置や施設のバリアフリー化
- 備品の整備(机・椅子、パソコン、デジカメ、展示用棚など)

### 連絡先

林田・伊勢住民交流広場事業推進委員会  
TEL 079-261-3249(会長自宅)

地域づくりの  
課題と目標

神河町寺前地区は、9集落から成り、人口は町全体の26%を占めています。従来、各区の公民館を拠点とした自治会活動を中心に、子ども会、婦人会、老人会など各種団体の活動や地域づくり活動も積極的に行われていますが、生活の多様化、少子高齢化に伴う独居老人の増加などから、地域住民のコミュニケーション不足は否めません。また、若者の都市部への流出も多く、消防団員が減少し、災害時の迅速な防災活動に不安を感じている集落もあります。このことから、校区内の集落を超えた連携を図り、地域のコミュニケーションを活性化させ、安全安心で豊かさを実感できる地域づくりを目指しています。

ひょうたんクラブ



【ひょうたん加工教室】

環境学習の一環として、地域の子どもたちと「ひょうたんクラブ」を開催しています。1戸に1個のひょうたん配布を目標に、多世代の交流を図ることを目的としています。地域住民が土から丹精こめて栽培したひょうたんは、子どもたちと一緒に収穫をし、種や実を出し乾燥させた後、人形づくりなどのひょうたん加工教室を行っています。

11月26日に行われた「中播磨地域活動交流メッセ」では、ひょうたん販売と加工教室のテントブースを出展し、地域以外の方にも「ひょうたんクラブ」の活動についてPRすることができました。

ふれあい喫茶とミニデイ活動

従来行っていた「ふれあい喫茶」をさらに充実させるため、ボランティアスタッフがー丸となって取り組んでいます。月1回、スタッフが趣向をこらして作るおいしい朝食を囲みながら、住民同士が交流できる場を提供しています。

また、75歳以上の高齢者を招いて、ボランティアによる心のこもった食事をサービスする「ミニデイ」活動にも積極的に取り組んでいます。これは、20年以上継続している事業で、地域で孤立しがちな高齢者との交流を図ることで、高齢者の生きがいづくりと健康増進にも努めています。



【ミニデイ活動】

これまでの  
成果や  
今後の予定

集落を超えた交流を図ることで、地域住民のコミュニケーションが活性化してきています。

今後は、地域の伝統料理を普及させ、子どもたちに地域への愛着を持ってもらうための「食育活動」を行うことも計画しています。また、「ひょうたん栽培」を世代間交流のツールとしてだけでなく、加工物を特産品化して地域の活性化を図ることに期待しています。

拠点施設



神河町中央公民館

《主な整備内容：改修》

- 中央公民館のホールの改修
- 駐車場の整備
- 備品の購入（ビデオカメラ、パソコン、プリンター、デジタルカメラなど）

連絡先

寺前県民交流広場事業推進委員会

TEL 0790-34-0001(神河町役場内) / FAX 0790-34-1556

地域づくりの  
課題と目標

豊かな自然の中で、世代間を超えた交流の場をつくるために、住民の交流事業・環境保全事業・地域特産品の開発事業を三つの柱として5年間にわたり推進してきました。小学校区の中に10の自治会があり、自治会をまとめる方法として、各自治会長に委員として参画していただき、常に小学校の児童を中心とした事業の推進を図ってきました。

拠点施設



【炭焼き体験】

平成20年度には、活動の拠点となる「ふれあいの館」建築に施設整備費として備品を含め1,000万円を支出、活動費300万円は19~23年度の5年間で活用しました。「ふれあいの館」は校区の南部に位置し、国道29号と国道429号を結ぶ市道沿いに建築しました。外観は、山の中のログハウスといった感じで民家から少し離れていますが、このことがメリットとなり音楽を志す若者の練習の場としても活用されています。

また、宿泊施設“フォレストステーション波賀”に通じる道沿いでもあるため、観光客がマイクロバスを利用して初夏の夜を彩るホテル養殖池の見物に來られたり、イベントへの参加もあります。

ブルーベリーの摘み取り

森の学校(森林体験学習)・砂鉄採取・炭焼き・ピオトープ・かぶと虫の飼育・農業体験・収穫祭・ふれあい喫茶など豊かな自然を活かした様々な活動を行っています。

なかでも、ブルーベリーの栽培は25アールの田に350本を植栽し、品種も豊富であることから、地元の道の駅に出荷しています。摘み取りは地元自治会の主婦15名ほどにお願いしており、雇用の場にもなっています。また、小学生にも摘み取り体験をしてもらっています。



【ブルーベリーの摘み取り】

かぶと虫は年間平均して数百匹のふ化があり、小学生のふれあい体験のほか、ブルーベリー同様、地元の道の駅に出荷することで活動資金の確保につながっています。

炭焼き体験は、小学生を2学年程度招待し、釜から炭の釜出し体験の後、パン焼きや焼き芋体験をしており、毎年待ち遠しいひとときとなっています。

これまでの  
成果や  
今後の予定

波賀小学校から、これまでのお礼と来年からもぜひ続けてほしいと強い要望がありますが、補助金の終了にともない経費の捻出は難しく、できるだけ事業を残せないかと苦慮しています。

しかし、当初の目的は十分達成できたので、今後は、「ふれあいの館」の運営を始め、補助に頼らない事業の推進はどうあるべきか、早急に結論が求められているのが現状です。

拠点施設



ふれあいの館

《主な整備内容：新築》

○身近に山・川・休耕田のある敷地(市有地)に住民が集い、ふれあうための集会施設を新築(木造2階建、84㎡)

連絡先

波賀地域まちづくり推進委員会

TEL / FAX 0790-75-3336

地域づくりの  
課題と目標

少子高齢化により一部の集落が限界集落化、また高齢者の孤立化や子育ての不安が危惧されています。

委員会では、地域の活性化を図るため「出会い・ふれあい いきいき赤松の郷」のテーマのもと、赤松円心や大鳥圭介など郷土の偉人や歴史、ホテルをはじめとする自然環境など様々な地域資源をもう一度見直し、活用することで地域間・世代間の交流を推進していきます。

資料の展示



【資料の展示】

拠点施設である「いきいき交流ふるさと館」は、地元出身で明治時代の高官である大鳥圭介の誕生地にあり、自筆の書簡や掛け軸などが多数展示され、同氏の資料館的役割も担っています。

圭介まつりの開催や、小学校を対象とした学習会をはじめ、公民館などでの出前歴史講座など大鳥圭介の情報発信を地域内外に行うほか、ふれあい喫茶(月2回 第1・3日曜日の9~12時)の開店や、ふれあいハイキング(智頭線・JR利用促進事業の協賛もあります)、圭介そばなど月ごとに料理教室などを開催し郷土の偉人を通じた住民同士の交流だけでなく、観光客や学識研究者との幅広い交流も行っています。

手づくりよろいカブトの披露

赤松氏とゆかりのある浦上氏の居城・富田松山城跡がある備前市片上地区との文化交流を深めるため、「戦国武将よろいカブト交流事業」として、よろいカブト手づくり教室を実施しました。島根県安来市の「鎧かぶと手づくり教室保存会」の指導のもと、4班に分かれて、型抜きした厚紙をビール瓶などでこすって丸みをつけ、ニス・塗料塗り、飾り布貼り、紐通しなどの作業を3日間通して行い、その後、各班持ち寄り3ヵ月をかけて紙製よろいカブトを6体完成させました。



【手づくりよろいカブトの披露】

その後、足軽や雑兵用などのよろいカブトも製作し、今年で18回目を迎えた白旗城まつりで「赤松一族・浦上一族 親睦の儀」として片上地区の皆さんと一緒に披露しました。

これまでの  
成果や  
今後の予定

日本の近代化に貢献した大鳥圭介公の生誕地を整備・保存するとともに、講演会や企画展示などのほか、地元住民も参加して制作されたアニメ「けいすけじゃ」の発信などを通じて、地域住民の中で顕彰ムードが盛り上がり、町内外から地域を訪れる人が増えています。

また、播磨の戦国武将・赤松円心に関連して、本年より地域を挙げてよろいカブトづくりに取り組んでおり、関連イベントや武将交流を通じて更なる活性化を目指したいと考えています。

拠点施設



いきいき交流ふるさと館

《主な整備内容：新築》

- 大鳥圭介生誕地の町有地に資料展示等もできる拠点施設を新築(木造平屋建、約74㎡)
- 備品の整備(パソコン、プロジェクター、調理器具、そば打ち道具、机、椅子など)

連絡先

赤松地区むらづくり推進委員会

TEL / FAX 0791-52-4605 (上郡町立赤松公民館)

地域づくりの  
課題と目標

江川地域は兵庫県の西端、播磨北西部に位置し、岡山県美作市に隣接しており、町立江川小学校を中心に11の集落で構成された人口1,300名弱、戸数435戸の中山間地域です。近年の少子高齢化の進展に伴い高齢化率も36.6%と高く、一人暮らしや二人暮らしの高齢者世帯が増加する中、ややもすると閉じこもりがちになり、お互いの繋がりが希薄化の傾向にあります。

そうした中、江川地域に住み続け地域を活性化するためには、誰もが気軽に声を掛け合い、交流のできる場の提供と、交通手段の確保が必要不可欠であると考えます。また、地域資源を活用したまちおこしにより、数多くの人を訪れることで、明るく元気あふれる地域を作りたいと考えます。

陰陽師の里コスプレ大会



【陰陽師の里コスプレ大会】

江川地域は、平安時代の二大陰陽師の一人、芦屋道満が京から流された地です。地域内には陰陽道の四神もあり、芦屋道満塚と安倍清明塚が谷の両側に対峙して建立されています。道満と清明にまつわる言い伝えもあり、「陰陽師の里 江川」として活性化を図っています。

11月には「よみがえる伝説のパワースポット！安倍清明塚！芦屋道満塚！」をテーマに、『陰陽師の里コスプレ大会』を開催しました。県内はもとより、東京や大阪など都市部から訪れた参加者が陰陽師の衣装を身に纏い、清明塚や道満塚、八幡神社で写真撮影。会場では地元の特産品江川栗の実演販売、地域住民手づくりのかきもち「安倍せんべえ」の販売もあり大変賑わいました。

地域デマンド交通「江川ふれあい号」の運行

地域内を走る路線バスが休止されたことから、高齢者等の買い物や通院など、自宅から目的地までの足を確保するため「江川ふれあい号」の実証運行を開始以来、1年以上が経過しました。電話予約の受け付けから運転まで地域住民の手によって行っています。予約を受け付けた時のみ運行するデマンド運行をしていますので、お客さんのいない日は運休します。そのため、とても効率的。利用者も定着しており、地域にとってなくてはならないものになりつつあることから、平成24年4月以降、本格実施することになりました。



【江川ふれあい号】



【ふれあい喫茶～ほっとえかわ～】

ふれあい喫茶～ほっとえかわ～

地域のたまり場として、月2回「ほっとえかわ」を開催しています。スタッフの女性4人が調理を担当。必ず1品は、出来るだけ地元食材を使用した手づくりのおやつを提供しています。普段着でワイワイガヤガヤ～誰もが気軽に立ち寄る事ができ、地域住民の拠り所として大変好評です。

デマンド交通「江川ふれあい号」の拠点として、毎日施設の利用があります。月2回のふれあい喫茶「ほっとえかわ」については、毎回約50名の参加者があり、拠点施設を活用した交流がすっかり定着してきました。

「陰陽師の里 江川」を契機としたイベントは、県内外から多数の参加者があり、当地域を広くアピールすることができました。また、「陰陽師の里」の特産品作りとして、栗焼き機を購入し、江川栗の復活を目指しています。今後は、地域内に生息する山菜や薬草、有機野菜や自然薯等、豊富な自然食材を利用した加工品を作り、まちおこしに活用できたらと考えています。

これまでの  
成果や  
今後の予定

拠点施設



旧JA兵庫西江川支店

《主な整備内容：新築》

- JA支店跡の店舗部分を改修し、多目的ホールを設置
- 高齢者等も使いやすいよう車椅子対応トイレの増設
- 備品の整備（机、椅子など）

連絡先

江川地域づくり協議会

TEL / FAX 0790-84-0540

### 地域づくりの 課題と目標

いつの頃からか地域のまとまりが弱まり、ふるさとへの愛着が薄らいでいます。また、大切な地域の歴史や文化がいつのまにか忘れ去られようとしているのが現状です。

私たちは、これら地域の文化遺産を掘り起こし、次代を担う子どもたちへ伝えることが使命と考え、そのツールとして「港かるた」を制作することとしました。

かるたづくりでは、遊びに広がりを持たせようと工夫し、区民の手により2年もの月日を要しましたが、現在、「港かるた」は、芸術的、歴史的文献としても高く評価をいただいています。今後は、新たな文化財産の一つとして活用しながら、人づくり、地域づくりを進めていきたいと思っています。

### 「港かるた」の制作と港かるた大会



【3世代交流「港かるた大会」】

港かるたは、区民70名の手づくりで2年間をかけて完成しました。取り札は両面を使用し、地域の史跡・伝承を題材とした切り絵による絵札と、その片面は区民から公募した読み句を「書」で表現した字札になっています。

現在、「港かるた大会」を継続的に開催しており、子どもから高齢者まで3世代が参加する一大イベントとなっています。

また、読み札の裏面には題材に関する解説も載せており、小学校などで地域の歴史を学ぶ教材としても活用されています。

### ガイドマップの制作と「港かるた史跡めぐり」

港かるたの完成後、史跡等に関する問い合わせが数多くありました。この声をきっかけに、港かるたの題材となった史跡等の所在地、かるたの絵札や解説などを記した手づくりのガイドマップを制作し、そのマップを片手に史跡・伝承の地を巡る「港かるた史跡めぐり」を開催しています。

地区外の参加者の方にも好評をいただいています。何より区民一人ひとりが、改めてふるさとの素晴らしさと誇りを感じとっています。



【ふるさと再発見！港かるた史跡めぐり】

### これまでの 成果や 今後の予定

港地区は、地区の真ん中を川幅300メートルにも及ぶ円山川によって東と西に分断されていますが、「港地区は一つ」の合言葉で地域づくりが行われてきました。「港かるた」の制作を機に、さらに双方の絆は強まり、豊かな自然と文化遺産に恵まれたふるさとへの愛着も増してきています。「港かるた」は、人と人、地域と地域をつなぐ役目を果たしていますが、今後は、県内外の一人でも多くの人たちとの交流のツールとしても活用しながら、地域の活性化を目指します。

#### 拠点施設



市立港地区公民館  
港地区交流センター

#### 《主な整備内容：新築》

- 公民館に隣接して世代交流のできる交流センターを新築  
(木造平屋建、約100㎡)
- 備品の整備(机、椅子、パソコン、プロジェクター等)

#### 連絡先

#### 港地区区長会

TEL / FAX 0796-28-3402

地域づくりの  
課題と目標

奥銀谷地区は高齢化率42%と朝来市の中で最も高齢化が進行しています。また、面積は63k㎡と広く、奥地の集落から中心部までは25kmも離れており、一体的なコミュニティの形成が図りにくい状況にあります。

さらに、スタッフの高齢化や財源の確保などの課題もありますが、「みんなが主役 いきいき元気 奥銀谷」をキャッチフレーズに①身近な学び場と機会づくり、②地域住民の交流促進、③健康づくりなどの取組を進め、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

笑顔がふれあう地域づくり

拠点施設「かながせの郷」では、高齢者を対象とした健康体操教室や囲碁・将棋教室のほか、小中学生を対象とした書道教室、カルチャー教室「地域の歴史を学ぶ」や高齢者と園児らのふれあい行事など幅広く活用されています。

また、週2回のふれあい喫茶「だんらん」も定着し、住民の憩いの場として多くの方に利用していただいています。

これら拠点施設での活動を通して、運動会や盆踊りなど地域行事への参加者も増加するなど、地域交流の輪が広がっています。



【気軽におしゃべり“ふれあい喫茶”】



【地域の絆を深める“地区運動会”】



【利用者から好評“買い物支援”】

高齢者が安心して暮らせる地域づくり

平成23年度から、自家用車など交通手段を持たない高齢者世帯を対象に、食品や日用品などの「御用聞き」に戸別訪問し、翌日に商品を届ける「買い物支援事業」に取り組んでいます。

現在、週1回ですが、訪問の際は健康状態など安否確認も兼ねており、利用者から大変喜んでいただいています。

今後も高齢者が安心して暮らせる地域づくりを目指して、高齢者支援の充実を図る取組を進めます。

これまでの  
成果や  
今後の予定

拠点施設における各種教室やふれあい行事、ふれあい喫茶などを通して、運動会や盆踊りなどの地域行事への参加者も増加するなど、住民間の連帯感や協調意識が高まってきています。平成23年度から高齢者の買い物支援事業にも取り組んでいます。これからも地域住民と力をあわせて、高齢者が安心して暮らせる地域づくり、笑顔がふれあう地域づくりを目指した取組を進めていきます。

拠点施設



かながせの郷

《主な整備内容：改修》

- ふれあい喫茶のため、旧幼児センター教室を厨房・喫茶室・図書室に改修
- 遊戯室を多目的ホールとして改修
- 備品（車両、会議テーブル、椅子、冷蔵庫、液晶テレビ等）

連絡先

奥銀谷地域自治協議会

TEL / FAX 079-679-4131



地域づくりの  
課題と目標

余部地区は、香美町最西部に位置し、北は日本海、三方は豊かな自然に囲まれ、100年の歴史を持つ「余部鉄橋」や、平家落人伝説の里として知られる御崎地区、日本一高い場所にある「余部埼灯台」などがあり、県内外から脚光を浴びている地域でもあります。余部鉄橋は、平成23年8月に架け替えられ『余部橋梁』として新しく生まれ変わりました。さらに、高規格道路（鳥取豊岡宮津自動車道）の整備など交通を中心に利便性が高まりつつある半面、少子高齢化が進展する中、通過交通による地域の空洞化や過疎化が大いに懸念されています。

今後、地域の活性化に向け、余部橋梁や豊かな自然など、地域の特性を十分に生かし、さらなる100年を目指した取組を進めていきます。

新橋梁完成イベント「紅白餅づくり」と「宝船行列」

【小学生による「宝船」行列】



【41.5mの紅白餅づくりに挑戦】



平成23年8月の余部橋梁（余部鉄橋）の完成を祝い、地域交流イベントとして橋梁（鉄橋）の高さ41.5mと同じ長さの“紅白餅づくり”に挑戦しました。当日は、地元小学生全員が手づくりの「宝船」をひいて練り歩き、イベントを盛り上げてくれました。

これからも余部鉄橋とともに歩んだ100年の歴史の伝承活動などを通して、人と人のつながりを深めていきます。

新橋梁と里山「たかのすの森」遊歩道でトライウォーク

余部橋梁の完成にあわせて、橋梁と里山「たかのすの森」遊歩道をコースとした「トライウォーク」を実施しました。

今回は、3世代交流事業の一環として実施しましたが、アンケート調査の結果、継続を願う要望が多く寄せられました。

今後は、さらに地区以外の皆さんとの交流の場としても位置づけ、余部地区の魅力を内外に発信するイベントに定着するよう取り組んでいきます。



【眼下に新橋梁「トライウォーク」】

これまでの  
成果や  
今後の予定

余部橋梁の完成、高規格道路や里山遊歩道の整備、鉄橋跡地の道の駅の開業など、地域もめまぐるしく変化しています。そんな中、県民交流広場事業をはじめ地域の活性化に向けた取組への必要性や期待は高まってきています。これからは余部鉄橋と歩んできた100年の歴史、地域の豊かな自然や文化遺産を守り、次代につないでいくことを柱に、余部地区の魅力を内外に発信しながら、地域の活性化を目指します。

拠点施設



町立余部地区公民館

《主な整備内容：改修》

- 既存会議室の和室化と和室の洋室化による拡張
- 入り口の段差解消や洋式トイレへの取替等のバリアフリー化
- 備品の整備（テーブル、プロジェクター、スクリーン、ラミネーター等）

連絡先

明日の余部を創る会

TEL / FAX 0796-34-0415

**地域づくりの  
課題と目標**

少子高齢化が進む中、平成22年3月末で小学校が閉校しましたが、学校がなくなったという寂しさではなく、それをバネにして、地域住民が世代を超えて参加する交流イベント「くもべふるさと夏祭り」「洞光寺ともみじまつり」「歴史探訪ウォーク」等を開催するほか、新たに都市と農村交流事業をも展開し、定期的な特産朝市を開催するなど、地域の活性化や定住促進につながるような事業に取り組んでいます。



【雲部ふるさとまつり in 尼崎  
丹波篠山黒枝豆販売開始】

**都市との交流**

くもべまちづくり協議会では、新たに生産組合(農家の代表)を加えた交流部会を設置し、都市との交流を通じて農産物の販売促進・確立を図り、併せて農業体験や文化交流、更には定住の促進、ひいては地域の活性化を図ることを目的に、尼崎市園田北地域推進会との県民交流広場同士の交流を始めました。

今では、年1回の尼崎での「雲部ふるさとまつり」で黒大豆の枝豆など野菜の朝市や、2ヵ月に1回の軽トラ市、隔年開催の三世代交流や「洞光寺ともみじまつり」での交流など、様々な取り組みを、あわてず、ゆっくりと、末永く続くように進めています。

**洞光寺ともみじまつり**

1374年(応安7年)に建立された、篠山市で最初の禅宗寺・寶鏡山洞光寺は、もみじの古刹としても大変有名で、この大事な地域遺産を守りながら、小学校、中学校の児童生徒や多くのサークルの協力をいただき、世代間、住民間の交流を通して、地域の活性化を目指し進めています。

約60人からなるスタッフが模擬店を運営し、寺院本堂前特設舞台では、地元の演芸サークルに加えて、隔年には尼崎のチームも出演するなど、もみじの絶景に加えて大変楽しい一日になります。

最近では、NHKの天気予報にもみじ情報が出るようになり、本年の観光バスが延べ200台を超えたと聞き及びます。



【洞光寺ともみじまつり：もちまき】

**これまでの  
成果や  
今後の予定**

小学校の閉校という現実を踏まえる中で、小学校跡地利活用計画を樹立し、すでに高齢化の進んでいる雲部地域の10年先、20年先を見据えて、都市交流を含め定住促進につながるような地域の活性化を目指したいと考えます。そのためには、先ず内向きとして「ぐるっと雲部～ふるさとマップ」を作成し、ふるさとを再発見してもらいます。外向きには都市交流とコミュニティービジネスの開発を具現化することが目標です。

具体的には、田舎を楽しむミニツアー、米の定期便、野菜特産市、交流イベント、伝統的田舎文化の体験村等々、幸い都市交流も2年目に入り、特産市等は順調に展開中ですので、お互いに対等の立場でメリットのある交流になるよう心がけて進めていきたいと考えます。

**拠点施設**



市立雲部公民館

《主な整備内容：改修》

- 活動で使用する大型テント等を格納する屋外倉庫の整備
- トイレの洋式化
- 備品の整備(会議テーブル、椅子、パソコン、プリンター等)

**連絡先**

くもべまちづくり協議会

TEL / FAX 079-506-2202

地域づくりの  
課題と目標

南北に長い地形のため、北・中・南とでは少しずつ風土が異なり、他の集落で何が行われているかということが知られておらず、「交流」を進めていくには、情報の共有化が不足している現実がありました。

活動の出発はそれぞれ異なりますが、コミュニティを情勢する拠点が4カ所ある中で、区域全体での情報の共有と、相互交流を深め、地域を再認識することが基礎であると考えています。



【ふるいち塾：  
波賀野縄文遺跡見学会】

知る識る見知る

地域の歴史を伝承していこうと始まった「ふるいち塾」。

H23年度末には73回目になり、毎年3回ほど地域を順次訪問しフィールドワークを実施してきました。地区にいっぱいある「宝物」を地域の人たちにも知っていただくために、『知る識る見知るマップ』を作成して全戸配布し、また史跡等には「説明プレート」を建てていく事業も進めています。

郷土を愛し、郷土を守っていくためには、先ず自分たちの地域の中味を知ることが大切で、毎月の広報誌の中にも紹介し、先人たちが守り残してきたものを次の世代に渡していきたいと願っています。

文化活動発表会

今年で第9回を迎える「文化活動発表会」。まちづくりの活動拠点となっている「古市コミュニティ消防センター」を利用して活動しているサークルが、自分たちの活動成果を地域の人達にお披露目します。作品の展示やステージでの実演など、華やかな一日ですが、364日間の地道な積み重ねが花開く時です。

近所の人々の「ハレ」の姿や作品を楽しみに、たくさんの住民が詰めかけ、スタンディングオベーションが鳴り響きます。



【文化活動発表会】

これまでの  
成果や  
今後の予定

「まちづくり協議会」を設立させる前に、何度もワークショップを繰り返し、「地域の課題が何なのか」を探りだしてきました。課題を解決させるという「目的」に沿って継続的な事業に取り組んできた結果、地区住民の意識が次第に芽生えてくるようになってきました。

高齢化地域だが、これからは、若い世代と一緒に活動できる事業展開の仕組みを展開させていくことが「目的」を達成する道だと考えています。「事業消化」ではなくて「目的達成」の歩みを忘れないようにして。

拠点施設



古市コミュニティ  
消防センター

《主な整備内容：備品購入のみ》

- 拠点施設は平成14年新築であり、活動の展開にあたり改修等は行わない。
- 備品の整備（カラー複合機、パソコン、プロジェクター、テント、ビデオカメラ、発電機、椅子、キャビネットなど）

連絡先

古市地区まちづくり協議会  
TEL / FAX 079-595-1085

### 地域づくりの 課題と目標

当地域は市全体と比較しても高齢化率が高くなっていることから、コミュニティの希薄化を心配する声があり、将来に向けた地域として次代への引き継ぎ、夢を育んでいくのか地域全体が考える必要があります。

また、安全で住みよい地域を築いていく必要があり、地域ぐるみで連携、協働する「まちづくり」を目指すことが重要であると考えています。



【葛のつる工芸教室】

### ふれあい事業による、世代間交流

この地域には恵まれた自然環境があり、各種団体に校区内にて多様な活動が実施されています。そこで地域住民に啓蒙及び教室を通じて活動を紹介し、地域の良さを見直してもらうために事業を実施しました。

- ・ 姫ボタルまつり
- ・ 葛のつる工芸教室
- ・ ふれあいハイキング（ウォークフェスタ）
- ・ 地区運動会

### あいさつ運動など地域ぐるみ防犯活動

各自治会に見守りパトロールを依頼し、あいさつを通じて地区内の大人と小・中学生が顔見知りになり登下校時の安全確保ができ、パトロール活動により地域の交通安全・防犯安全が確保され、住み良い「まちづくり」が出来ます。

- ・ あいさつ運動の懸垂幕、のぼり
- ・ 久下っ子安全マップ
- ・ チラシによる啓蒙活動
- ・ 見守りパトロール



【私のできる見守りパトロール】

### これまでの 成果や 今後の予定

これまでは活動拠点施設がなく、市の施設の一部を間借りして事務をしていましたが、県民交流広場の採択を受け、その拠点を活用した新たな活動を展開し、多くの人々が集まりやすくなりました。

今後は、環境・自然環境を守る活動や都市との交流の取り組みなどで引き続き地域の活性化を図っていきます。

### 拠点施設



久下自治会館

### 《主な整備内容：改修》

- 調理室を事務所及び会議室に改修
- 多人数での使用に対応するため集会室の空調設備を改修
- 備品の整備(机、椅子、プロジェクター、スクリーン、パソコン、デジカメ等)

### 連絡先

久下自治振興会

TEL / FAX 0795-77-3333

地域づくりの  
課題と目標

当地区は近年、農地の宅地化が進み、事業所や商業施設などが数多く立地することになり、スーパー、病院さらには洲本市の表玄関ともいえる洲本 IC を抱え、交通の要衝ともなり、比較的住みやすい環境にあります。その半面、宅地化が進んだ結果、新旧住民が混在して住むようになり、住民意識も多様化してきました。また、少子高齢化も進んでおり、一つの町内会だけでは伝統行事の継承も難しくなっており、加茂地域が一体化し活性化を図る必要がありました。

また、公民館が加茂小学校の体育館に併設され、ロビー部分が体育館の舞台と共用する施設となっており、授業への影響、駐車場の確保等々、利用面での制約が多いという問題も抱えておりました。

幸い地区内の上桑間町内会が新公会堂の新築を予定しており、敷地面積が500坪近くあり、イベント開催、駐車場に十分なスペースを確保できることから、この施設を利用することで問題の解決が図られました。

公民館活動との重複をさけ、「郷土の歴史探訪教室」「環境サポート教室」「安全・安心教室」「食と健康教室」「ふれあい喫茶・子育て広場」の5つの教室を開設し地域の「絆」が一層深まるよう取り組んでいます。

環境サポート教室

平成16年度水害で壊滅的な被害を受けた洲本川も激甚災害の指定を受け、その様相は見違えるばかりに整備されつつあり、これを機会に洲本川の自然特性や環境・景観などを「守り」「創り」「活かし」「伝える」ことを基本理念として、安全で美しい川づくりに取り組み、年3回の堤防草刈りをはじめ、植樹された98本の桜への水遣り、消毒、肥料遣り等に取り組んでいます。その他、本年度は資源の有効利用啓発のための廃紙を使った「作って遊ぼう」や、節電への取り組みを通して環境問題を考える講演会を実施しました。

平成26年度には、成長しているであろう桜並木の下で盛大な「桜まつり」を実施したいと考えています。



【洲本川堤防草刈り】

食と健康教室

若狭、志摩の国とならんで「御食(みけつ)国(くに)」と呼ばれる淡路島において、当地区には天皇の食事のことを掌った「内膳」と名のつく地域がほぼ半数をしめています。古くから食に携わってきた伝統を踏まえ、本年は5月に古代米の田植えを行い、10月には稲刈りを行いました。

また、健康に関し最大の関心事である「生活習慣病」に取り組み、洲本市健康福祉部より講師を招き、講習会を行いました。



【古代米(紫黒米)の田植え】

これまでの  
成果や  
今後の予定

公民館等と違って常駐者がいなく、限定された開館にもかかわらず、「いきいき百歳体操」や各種愛好家団体による大正琴の演奏、詩吟の吟詠などの協力もあり、予想以上の参加者を得て地域間交流、世代間交流が促進されているように思います。

しかしながら、開設後1年に満たない状況ではまだまだ浸透しているとは言えず、いかにPRに努めるか、いかに開設日を増やしていくか、克服すべき課題も多いですが、阪神・淡路大震災、平成16年大水害などを経験しており、地域の繋がり、絆の大切さは多くが共有していることであり、地域が一体感をもてるよう企画・立案に努めてまいります。

拠点施設



上桑間公会堂

《主な整備内容：新築》

- ふれあいコーナー、集会室、調理室を備えた活動拠点を新築(鉄骨平屋建て、約270㎡)
- 備品の購入(印刷機、机、椅子、パソコン)

連絡先

加茂地域県民交流広場事業推進委員会  
TEL / FAX 0799-22-4907

地域づくりの  
課題と目標

当地区は3毛作型の農業が基幹産業で、1年を通して多忙であり生涯現役のため「個」が優先され、コミュニティ参画の余裕が少なく、また、地域コミュニティの中核は自治会ですが、役員任期は1年であり、中、長期的課題解決は時間的に不可能な状況にあります。

また、行政や公民館、各団体の連携(情報交換、交流等)体系は十分でなく、歴史・風土資産が豊富であるが、地域住民には知る環境が少ないことが課題です。それら課題を解決するために、“郷土愛を育み 住みよい、住みたい 街づくり”を目標に地域づくりに取り組んでいます。



【餅まき】

ふれあい夏祭り

取組の基軸として、戦略、組織、広報を基軸としてダイナミックな組織活動と評価制度の確立をキーワードとして、推進しています。

特に、住民が参加することで、広場活動を体感することが重要と考えふれあい夏祭りを開催。当日は、たこ焼き、アイスクリーム等の飲食ブース、金魚すくい、ビンゴゲーム等の体験ブース、もちまき、カラオケ大会を行い、世代間交流の場として600名の参加があり、広場活動の評価を得ました。

身近な講座

今日的課題として、元東京大学原子核研究所助教授による「福島原発関連の講演会」を開催し、今の現実を適切に知ることで、各人の備えができる、考える環境づくりを行うことを目的に開催しました。また、関連として地元高校放送部が宮沢賢治の詩の朗読を行いました。

この講座の特徴として、地域から多くの学者を輩出しており、その方々を講師としての交流を含めた講座をコンセプトとしています。



【講演会】

これまでの  
成果や  
今後の予定

採択時期は平成22年で、実施期間は短いため、成果については具体的には難しいですが、①1年次事務局主導型、2年次は四部会主導型、3年次以降市民参画型に向けてのルールが敷かれつつあること。②イベントには予定以上の参加があり、内容も充実されてきたことが、現段階で評価できることです。

今後は、目標の具現化を図るため、実行しない場合とのトレードオフを明確化し、多様化した社会環境を配慮しつつ目標への挑戦を進めます。

課題点としては、評価点の数値化を分かりやすく表現しないと訴求力がないこと、また、5年間士気高揚の継続活動、さらに広場活動終了後の財源を含めた活動の広がり、行政とのリンク等、工夫・克服すべき課題点は多いですが、県内の事例研究を参考にしながら推進したいと考えています。

拠点施設



榎列公民館

《主な整備内容：改修》

- 図書機能等を備えたふれあいサロンを整備
- 大広間・和室・トイレに手すりを設置しバリアフリー化
- 館外花壇の整備

連絡先

おのころふれあい広場推進委員会  
TEL / FAX 0799-42-2393

地域づくりの  
課題と目標

地区内でも少子高齢化の影響で若者が減り過疎化が一層進んでいます。こんな中で小学校や保育所が統合され、過疎化の一層の危惧と住民間の交流が薄れており、地域内はもちろん、他地域住民との交流を拡大させて活性化を進めることが求められています。

今後は交流拠点となる生田村交流ひろばをいっそう活用した諸活動を進め、すべての地域住民が参加する諸活動を行っていきます。

伝統芸能生田五尺節の保存活動と「そば花まつり」



【そば花まつりで五尺節の発表】

生田交流ひろばの多目的室を活用して地域の伝統芸能である生田五尺節の保存の活動を続けてきました。子供の数が減少するなど継続するためには困難な面がありますが、とくに練習しやすい場所の確保に努めてきました。

地域資源であるそばの開花に合わせて、毎年 10 月に地域の一大イベントとして「そば花まつり」を開催、多くの方々が訪れます。今後も「そば花まつり」を継続開催し、発表の機会を作ることによって生田五尺節を保存する努力を重ねています。

ふれあい喫茶と「そばカフェ生田村」

地域住民の交流の場として週 2 回の「ふれあい喫茶」を開催。地域のグラウンドゴルフの練習日と合わせているために多くの住民が参加しています。

また、地域住民の交流だけでなく他地域の人々との交流促進のために「そばカフェ生田村」として地域資源のそばを手打ちで提供、4月から土日祝日に営業し、6 ヶ月間で地域住民と合わせて約 8,000 人の方々が訪れ交流を深めています。

そばの栽培から製粉、そば打ちまで地域で行い、「挽きたて」「打ちたて」「湯がきたて」のそばの味は好評で、山あいの行列のできるそば屋さん」としても有名になっています。



【そばカフェ生田村】

これまでの  
成果や  
今後の予定

交流ひろばが整備された本年は「そば花まつり」に過去最高の 4,500 人、4月からそばカフェには 8,000 人近い方々が訪れるなど、拠点施設整備と諸活動の成果が具体的にあらわれてきました。

今後は計画しながら実施できていない環境学習などの計画を着実に進め、地域住民の一層の結束を図っていきます。

拠点施設



旧生田保育所

《主な整備内容：改修》

- 旧生田保育所を活動拠点として、多目的室・喫茶室・厨房を整備。
- 大人用にトイレを改修
- 環境をテーマに、太陽光発電と薪ストーブの導入

連絡先

生田地域活性協議会

TEL 0799-70-1478 / FAX 0799-70-1479